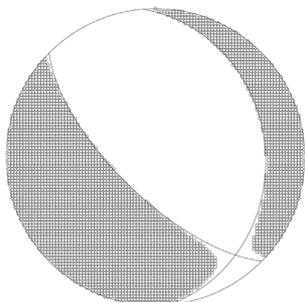


# 1月14日 ローヤリティー諸島の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

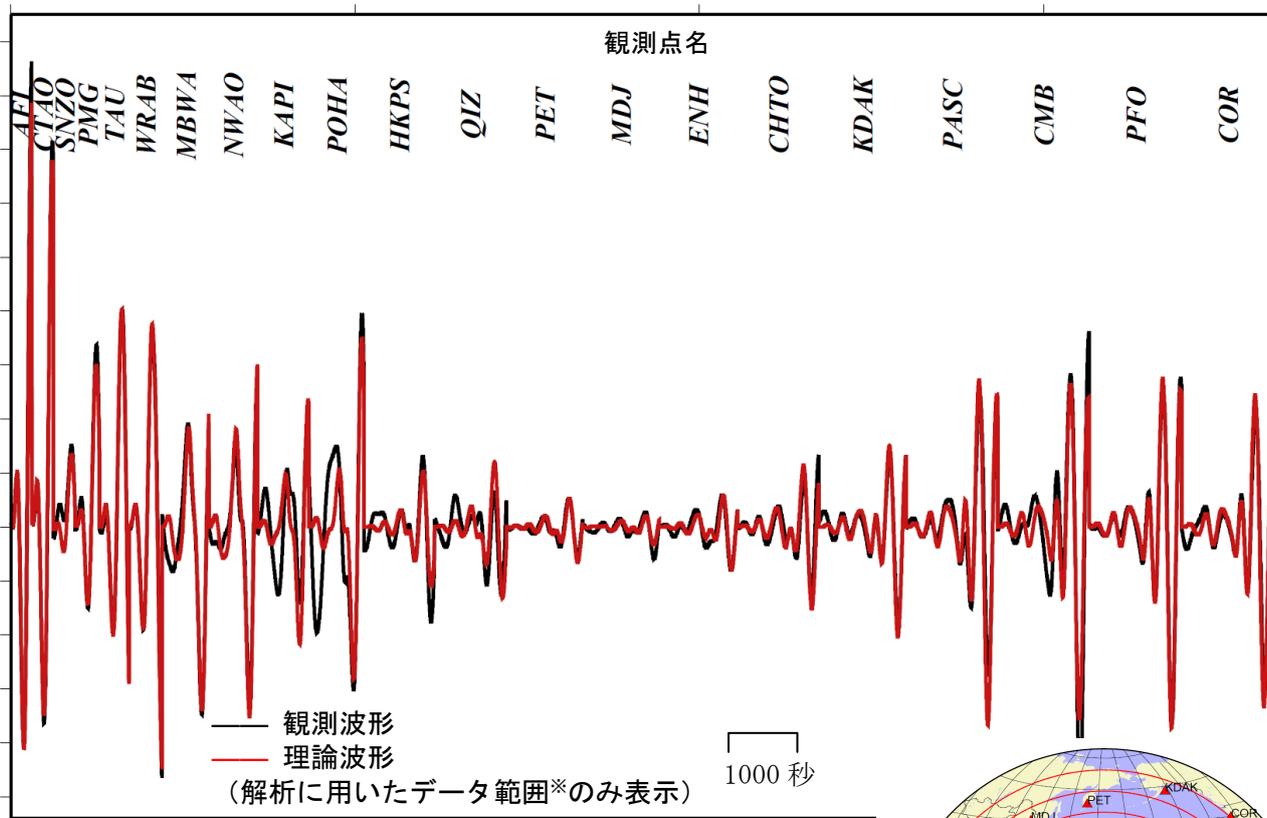
W-phase による解



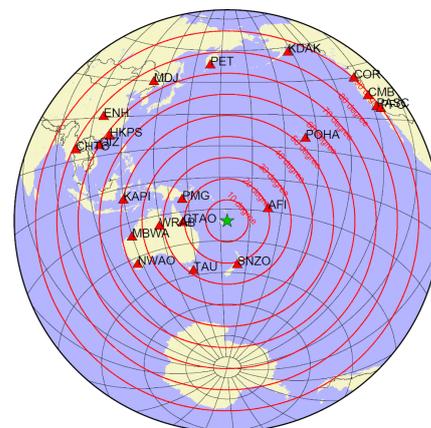
Mw7.0(7.03)

2011年1月14日01時16分(日本時間)にローヤリティー諸島で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMT などの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは7.0であった。なお、最適位置は S20.8°, E168.2° となった(深さは USGS による 9.0km を使用した)。

W-phase の解析では、震央距離 10° ~90° までの 21 観測点の上下動成分を用い、200~500 秒のフィルターを使用した。  
注)W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。



※解析に用いたデータの範囲は 15 秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。



解析に使用した観測点配置

(W-phase に関する参考文献)  
Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., 175, 222-238.

IRIS-DMC より取得した広帯域地震波形記録を使用した。また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用した。記して感謝する。